

主要な毒キノコとそれらの特徴 (1)

1) ツキヨタケ(最も中毒事故の多い毒キノコ; 症状は激しい下痢、おう吐)



- シイタケ、ヒラタケ、ムキタケなどの食用菌に類似、広葉樹の枯木、主にブナに群生。柄の基部に黒い染みがある。
- ひだと柄の部分は隆起した環帯で区画される。
- ひだは暗闇で青白く光る。

2) クサウラベニタケ(ツキヨタケと並んで中毒事故が多い; 症状は激しい下痢、おう吐)



- 食用のウラベニホテイシメジやホンシメジ類などの食用菌に類似、雑木林の地上に群生。
- 傘は肉質がもろく、湿時灰褐色～帯黄褐色、乾いてくると退色し易い。
- ひだは初め白色、のちピンク色をおびる。
- 中型なきのこで、多少粉臭がある。肉に苦味はない。

主要な毒キノコとそれらの特徴 (2)

3) ドクツルタケとその仲間(死亡事故が多い猛毒なキノコ)



●雑木林あるいは松を交えた雑木林の地上に点々と発生する、中型～やや大型なきのこ。ドクツルタケは白色のハラタケ類の食用種と、また、タマゴタケモドキはキタマゴタケ（食用）と誤食され易い。

●共にテングタケ類のきのこで、柄の上部に垂れ下がった膜質なつば、また、基部（しばしば土に埋まっている）に袋状のつばをもつ。ひだは成熟したきのこでも白色。

●ドクツルタケおよび近縁なシロタマゴテングタケでは全体が白色。タマゴタケモドキでは傘がくすんだ黄色、柄が帯黄色。類似のタマゴテングタケ（やはり猛毒）では、傘がオリーブ色～帯褐オリーブ色、柄の表面は繊維状の小鱗片を生じ、通常傘より淡色。

●中毒症状の発現が遅い（一般に食後10～14時間後）。初め急な激しいおう吐、粘質物を含んだ水便様の激しい下痢、腹痛、激しいのどの渇きなど。重症では肝および腎機能障害を起し死亡。

